

耐震性能について

1 耐震診断の実施

- ◆岐阜市では、平成7年の阪神淡路大震災を契機として、平成7～18年度及び平成21年度に岐阜市有建築物について耐震診断を実施し、以後、平成27年度未完了を目標に、耐震補強工事、建替え工事を進めています。
- ◆耐震診断の対象建物は、「昭和56年の建築基準法改正以前に建築された建築物」で、「構造は非木造を原則（一部木造を含む。）」等とされています。

2 本庁舎における耐震診断結果（平成7年度実施）

建 物	算定値	耐 震 判 定	耐震化予定
高層棟	QU/QUN=1.10 (※1)	A判定 大地震（関東大震災クラス、震度6）に対しても、構造躯体には重大な損傷がなく、人命を守ることができると考えられる。	無し
低層棟	Is=0.66 CT×SD=0.66	A判定 耐震性能はかなり良いが、大地震に対して部分的な被害が想定される。	無し
附属棟	Is=0.72 CT×SD=0.25	B判定 大地震時に大きな変形が生じ、仕上げ、建具に大きな被害が想定される。	平成26年度 予定

※1：高層棟は、建物の構造上、耐震指標（Is）の算定ができないため、建築基準法の新耐震基準を準用した保有水平耐力で評価。

3 用語解説と判定基準

(1) QU/QUN（保有水平耐力比）

建物が地震による水平方向の力に対して対応する強さの指標

国土交通省の耐震判定基準は、 **$QU/QUN \geq 1.0$**

(2) Is（耐震指標）

建物の強度、粘り強さ、形状、経年劣化などから算出した耐震性能を表す指標。

CT×SD

累積強度指標と形状指標の積で求められる指標。

国土交通省の耐震判定基準は、 **$Is \geq 0.6$ かつ $CT \times SD \geq 0.3$**

(3) 岐阜市における耐震性能表現

耐震性能表現	基 準	耐震補強工事
A判定	$0.6 \leq Is$	
B判定	$0.42 \leq Is < 0.6$	平成27年度までに実施予定
C判定	$0.18 \leq Is < 0.42$	平成24年度までに実施
D判定	$Is < 0.18$	該当建物なし

※CT×SD値<0.3のときはIs値が0.7以上の場合でも安全としません。

※幼稚園、小中学校等においては、文部科学省の基準に基づき、Is値0.7未満を耐震補強の対象としています。また福祉施設である保育所についても、同基準を準用している。